

会長挨拶



日本顎口腔機能学会 会長

増田 裕次

(松本歯科大学総合歯科医学研究所顎口腔機能制御学講座部門 教授)

本会は、1982年に「下顎運動機能とEMG研究会」を前身として発足しました。当初は、「日本ME学会専門別研究会」でした。その後、1985年に顎口腔機能研究会として、1993年には日本顎口腔機能学会となり、今日に至ります。

本会の目的は「顎口腔系の諸機能に関する基礎ならびに臨床の真理を探求し、その進歩発展を図ること」としています。顎口腔機能は「食べる」、「呼吸をする」、などヒトが生物として生きていく上で極めて重要な機能であるだけでなく、「話す」、「表情をつくる」など社会生活を送るうえでも必要な機能であり、人間らしく生きるためにも重要です。そのために歯学、医学、工学、心理学など、多様な専門家が学際的な活動を続け、多くの実績を残してきました。本会の目的は、子供から高齢者に至るまで、各ステージにおいて口腔機能を健全に発達・維持させるために重要であり、さらなる発展が望まれています。

年2回の学術大会では、国内では異例の学術大会で発表15分・質疑応答15分と質疑応答の長い時間をとり、各分野の研究者たちが真摯な態度でディスカッションを進め、真理の追究に共に向かっていくことを繰り返しています。この学術大会の形式は「下顎運動機能とEMG研究会」の発足当初から綿々と引き継がれている伝統です。さらに、若手研究者の育成のため、研究計画立案から実際の測定手技の習得、結果の分析と発表までを行う研究ワークショップ（「顎口腔機能セミナー」を2年に一度）開催しています。大学院生からベテラン研究者に至るまでの多様な参加者で切磋琢磨しながら、3日間を過ごします。大学や専門分野を超えての仲間づくりにも役立っています。本会の大きな特徴は、学術大会や顎口腔機能セミナーを通して、次世代の育成に大きく貢献していることです。

出版物としては、年2回の「学会誌」の発行に加えて、単行本「よくわかる顎口腔機能」、「顎口腔セミナー単行本」、「顎口腔機能評価のガイドライン」も順次刊行し、研究活動を社会へ発信しています。

近年、歯科臨床で口腔健康の維持向上の意識が高まり、科学的根拠をもった口腔機能検査の重要性が高まっています。確固たる機能検査を開発していくためには、解明しなければならないことが数多くあります。そのためにも本会の活動は重要になりつつあると思います。研究活動を社会に貢献できる形にしていくように、本会が発展していくことに期待します。

顎口腔機能に「愛」を持って、本会を運営していきますので、ご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。